

《税務の知識》世界の工夫を凝らした税金

はじめに

日本では平成21年以降、税による収入が歳出の50%を割り込み、新規国債発行による公債入に依存した財政状態となっています。

打開策として、消費税だけでなく、相続税増税による増収の増加が検討されています。

歳出に占める増収の割合(%)

(単位:年度)

18	19	20	21	22	23	24 (予)
60.2	62.3	52.3	38.4	43.5	42.5	46.9

注: 23年度以前は決算額、24年度は予算額による。

出典: 財務省 HP より抜粋

そこで今回は、世界各地で実施されてきた工夫された税について紹介し、税に対する知識を深めていきたいと思えます。

1. 渋滞税: イギリス

イギリスで2002年より導入された税金。慢性的な渋滞に悩まされていたロンドンでは、渋滞緩和のため、都市部に乗り入れる車に対して課税しました。普通車は8ポンド(およそ1,000円)、大型車では25ポンド(およそ3,000円)都市部の入り口には200機以上のカメラが設置されており、不払いに対する反則金も徴収しています。

2. 独身税: ブルガリア

1968年から1989年まで導入されていた税金。ブルガリアはもともと、人口が800万人ほどと少なく、労働人口の確保と出生率向上のため、20歳以上の独身者にたいして、収入の3~10%を課税しました。政府の思惑通り、既婚率は大幅に上昇したものの、出生率は1970年の2.18Ptから1989年には1.86Ptにまで低下、同税による効果はほとんど見られなかった。

3. 家畜税: ニュージーランド

ニュージーランドでは地球温暖化対策を目的として、羊や牛など、メタンガスを吐き出す家畜に課税しています。羊では1頭約10円。牛では1頭50円が課せられています。

4. 光るおもちゃ税: アメリカ

アメリカのウエストバージニア州で導入。おもちゃの光線銃など光を発するおもちゃに課税されます。子供の頃から銃が身近にない環境をつくるのが目的です。そのかいあってウエストバージニア州は全米でトップクラスの治安のいい州になっているそうです。

5. 史実に残る税金

ほかにも、国や時代ごとにさまざまな税金が課されています。

史実に残る税金

国名/税名	税額・税率	税金の内容・目的
ローマ帝国 / トイレ税	-	公衆トイレの使用料と同義。税金としての価値は不明。
日本/ウサギ税	1匹1円(現在の約7,000円)	1873年から6年間導入。不正売買の抑止が目的
中世イギリス/窓税	窓の数、面積に応じて課税	窓の数は、財力の象徴と考えられていたため、窓を多く持つ邸宅に課税
中世フランス/空気税	-	空気を吸う人に対して課税。結局は実施できなかった
ロシア / ひげ税	ひげの形状に応じて	1704年、当時の大帝ピョートルがひげを生やした人に課税すると発表

おわりに

今回は、世界の税金を紹介することで税についての考えを深めてきました。これらの税金が日本で導入されるかどうか、それに適しているかどうかは別にしても、税について考えるということは、将来私たちが負担していくべきコストについて考えることにほかなりません。私たち一人ひとりが、日本の現状を俯瞰して認識し、将来のコストについて想像してみる必要があります。

(担当: 岩崎)